

2. 特徴的な種

2.1 ビワマス

琵琶湖より産卵のために秋に遡上、幼魚は春に琵琶湖にかえります。



サケ科の淡水産の硬骨魚
サクラマスによく似た琵琶湖固有種。
別名アメノウオ

3. 生息環境の現状

3.1 河川環境の変化

【昔の野洲川】

かつての野洲川は、野洲町竹生地区付近で大きく二本に分かれていました。

私たちの祖先は、古くから野洲川の水の恩恵を受けており、その様子は、昭和49年に発見された服部遺跡からもうかがえます。



野洲川周辺では伏流水が至るところで湧き水となって清らかな小川を作っていました。そこにはハリヨやゲンジボタルが生息し、人々に安らぎを与えていました。



丸坪湧跡

服部遺跡



弥生時代前期の竪穴式住居跡

野洲川の水は、全国に名を知られる近江米を生み出しました。



牛を使った精作風景 (昭和30年頃)



ゲンジボタル



ハリヨ

3. 生息環境の現状

3.1 河川環境の変化

【野洲川放水路】

大きな洪水から守るため新しい野洲川(放水路)をつくりました

もし、昔のままの野洲川だったら！

近年の大きな洪水(H.2.9洪水)が発生した場合を想定すると、野洲川下流に大きな被害をもたらすことになります



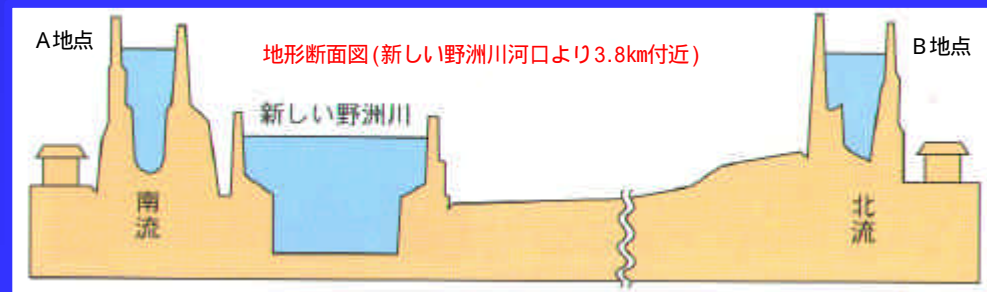
× 印は、昭和28年洪水の決壊箇所です。



明治29年の洪水



昭和22年の洪水



3. 生息環境の現状

3.1 河川環境の変化

【湧水(環境用水)】

かつて、多くの人々に利用されていた湧水が、近年、枯れつつあります。



出典『守山市誌』

3. 生息環境の現状

3.2 魚類の遡上

【落差工】



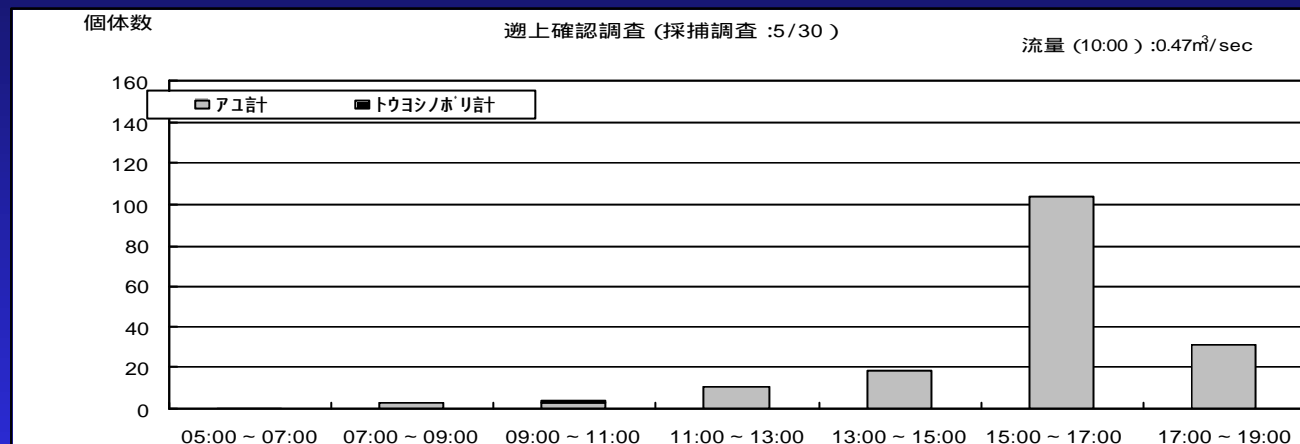
3. 生息環境の現状

3.2 魚類の遡上

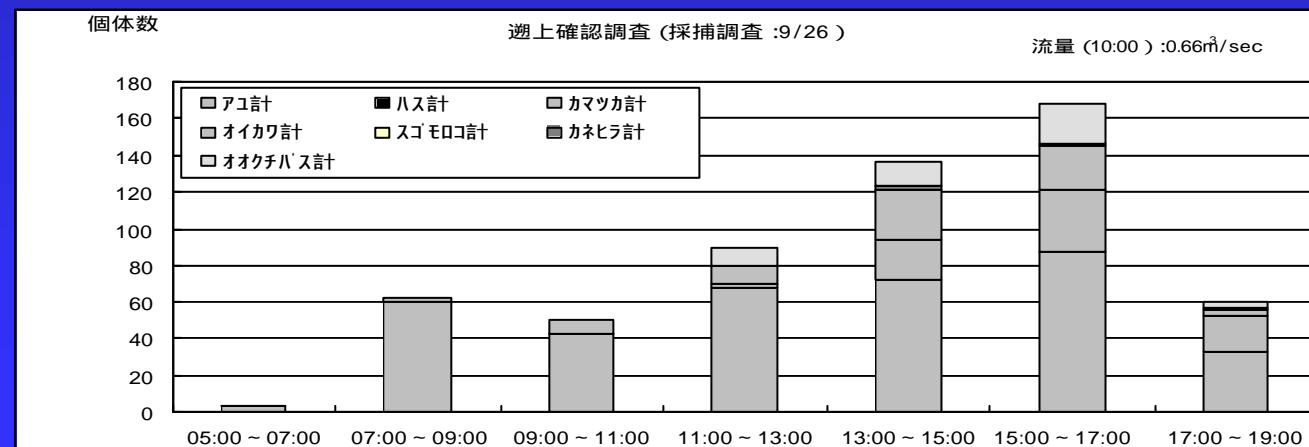
【魚類の遡上調査】

水量がある場合には、魚道を遡上する魚類が見られます。

平成12年 5月30日
流量0.47m³/sec



平成12年 9月26日
流量0.66m³/sec



遡上魚種 :アユ、トウヨシノボリ、ハス、カマツカ、オイカワ、オオクチバスほか
流 量 測定日 10:00計測

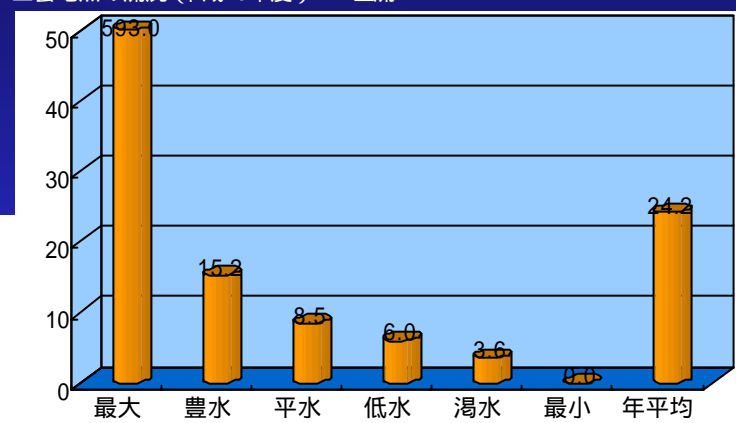
3. 生息環境の現状

3.3 河川の水量

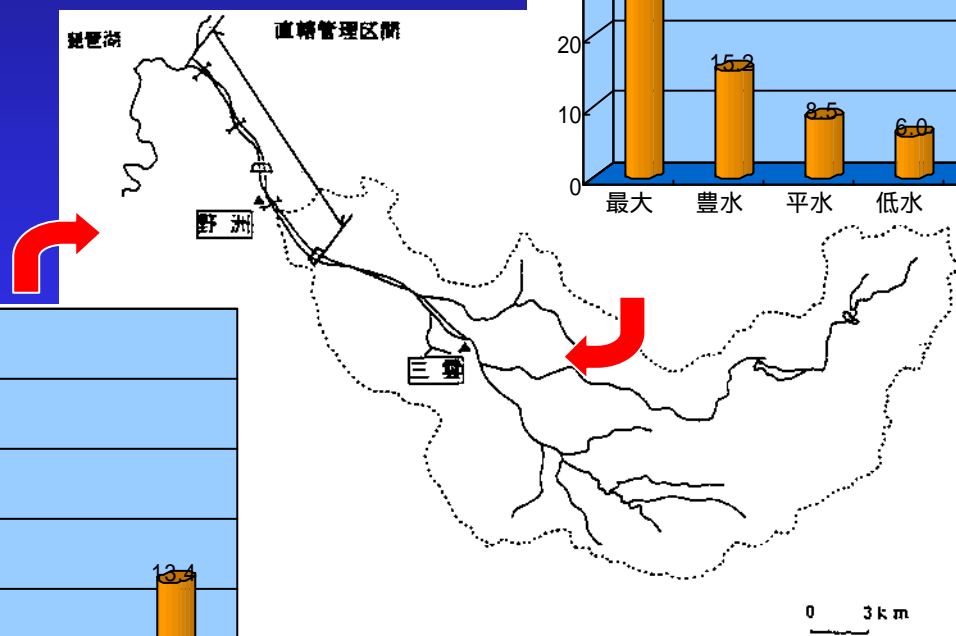
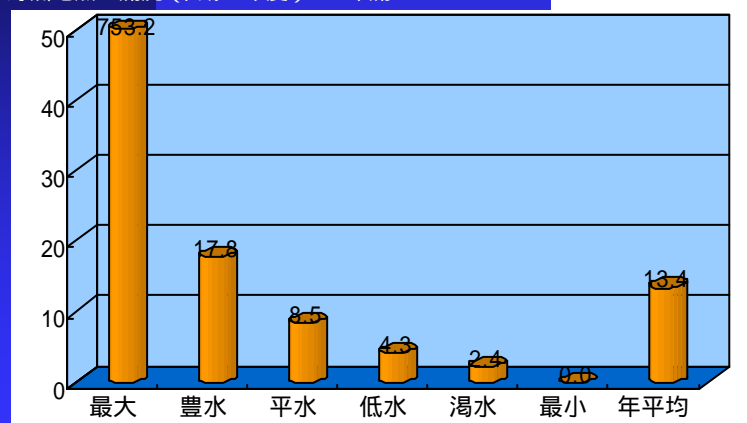
【流況】

下流の野洲地点の水量が少ない傾向にあります。

三雲地点の流況 (平成10年度) ~上流~



野洲地点の流況 (平成10年度) ~下流~



流量年表 平成10年」

3. 生息環境の現状

3.2 河川の水量

【瀬切れの状況】

石部頭首工から服部大橋にかけて、瀬切れがおこることがあります。

石部頭首工～服部大橋では



ほとんど水が流れていないときがあります。

服部大橋付近では



少しの水が流れています。

石部頭首工上流では



たくさんの水が流れています。

石部頭首工からの水路では



たくさんの水が私たちの暮らしに使われています。



平成12年8月撮影」

4 . 特徴的な生息環境

4.1 野洲川の河畔林

野洲川には生物たちの生息場所となっている河畔林があります。



河畔林の位置